

平成16年度 教師海外研修（派遣国：ガーナ）実践報告書

2005. 1. 15

1. タイトル 幸せってなんだろう
2. 氏名 谷口 徹
学校名 富山県 高岡市立博労小学校 担当 5年1組担任
3. 実践教科 総合的な学習の時間 時間数 17時間
4. 対象児童 5年生 対象人数 47人
5. カリキュラム案

(1) 実践の目的

- ・参加型学習を通して世界の現状を知り、違っていいものと違ってはいけないものがあることに気づく。
- ・世界の多様性を理解した上で、みんなが幸せになるために、自分ができることを考える。

(2) 授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限 テーマ：「幸せ」とは ねらい：「幸せ」について考える	1 あなたは幸せですか？ 2 「幸せ」と感じることを付箋に書く。 （ブレインストーミング） 3 グループで「幸せ度」ベスト5を考える。 （ランキング法） 4 グループの考えを発表する。	
2時限 テーマ：世界の家族 ねらい：世界の多様性を知る	1 5枚の写真を見て、「幸せ度」のランキングを考える。（フォトランゲージ） ①自分で考える。 ②グループ内でランキングを考える。 ③グループの考えを発表する。	・「地球家族」(フォトランゲージキット) ・世界地図
3時限 テーマ：「ガーナ」ってどんな国 ねらい：開発途上国の一つのガーナのことを知る	1 クイズを通してガーナを知る。 ①ガーナの位置、気候 ②ガーナの文化、教育 ③ガーナの歴史、風習 ④ガーナが抱える問題	・パソコン（PC） ・実物投影機（OHC） ・民族衣装 ・ガーナ記録写真 ・カカオ豆
4～5時限 テーマ：「青年海外協力隊」とは ねらい：青年海外協力隊のことを知る	1 ガーナの元青年海外協力隊員の話聞く。 ①ガーナの子どもたち、大人たちの生き方（一日の生活） ②青年海外協力隊員としてのやりがい	・スライド映写機 ・太鼓 ・なた ・臼と杵・民族衣装 ・地図
学習発表会 テーマ：国際理解教育・開発教育とは ねらい：ガーナの様子を知らせ、開発教育の状況を知ってもらう。	1 ガーナの研修報告会を行う。 2 ガーナの写真、カカオ豆などの展示を行う。 3 「幸せって何だろう」の学習のあゆみを展示する。	・パソコン（PC） ・実物投影機（OHC） ・民族衣装 ・ガーナ記録写真 ・ガーナの教科書 ・世界地図など
6～12時限 テーマ：世界の子どもたち ねらい：世界の子どもたちの様子を調べ、異文化を理解する。	1 課題作りを行う。 2 調べ学習を行う。 （1人～3人 本、インターネット、メール、電話、FAX、インタビューなど） 3 発表会を行う。 （クイズ形式、紙芝居形式など）	・インターネット ・本 ・世界地図 ・ガーナ記録写真集 ・紙芝居の台（手製） ・世界がもし100人の村だったらⅠ・Ⅱ（テレビ放送のビデオ）
13～17時限 テーマ：みんなが幸せになるために ねらい：みんなが幸せになるために、自分ができることを考える	1 「幸せ」と感じることを付箋に書く。 （ブレインストーミング） 2 グループで仲間分けをする。（KJ法） 3 みんなが幸せになるために、自分にできることを考える。 ①絵、文字で画用紙にかく ②グループ内発表する ③廊下に掲示する 4 学習のまとめをする。	

6 授業の詳細

【1時限】 「幸せ」とは (資料 1、2 参照)

◎アクティビティー； ブレーンストーミング、ランキング、連想図、対話、発表

子どもたちに、「あなたは幸せですか」と問い、「幸せ」についてのイメージを思い浮かべさせた。そして、自分が「幸せ」と感じることを付箋1枚に1つずつ何枚でも自由に書くように指示した。その中からベスト5を決めさせた。その後、グループで各自のベスト5を発表させ、グループのベスト5を決め、どのような基準で選んだかグループごとに発表させた。

子どもの感想

- ・幸せとすることは、人によっていろいろ違うな。ぼくは、家でごろごろしたり、寝る時がとても幸せです。
- ・幸せのランキングをつけるのは難しいな。みんなの意見をまとめるのは大変だ。
- ・ぼくが全く予想もしなかったことを考えている人がいておどろいた。
- ・休みの日に家族と、どこかに行くことを幸せと感じる人が多いな。

【2時限】 世界の家族 (資料 3、4 参照)

◎アクティビティー； フォトランゲージ、ランキング、対話、発表

フォトランゲージ「地球家族」の写真を各グループ5枚ずつ配り、各自どの国の家族が幸せか考えさせた。その後、グループで「幸せランキング」を決めさせた。また、気づいたことをプリントにメモをするようにして、グループの発表に生かせるようにした。

子どもの感想

- ・家具がなくても、大家族で幸せそうに暮らしている写真が印象に残りました。
- ・貧しい国もあるんだということが分かりました。とても幸せそうな家族やにぎやかそうな家族などがありました。世界の家族がみんなが、笑顔になったらいいなと思いました。
- ・とても裕福な国もあれば、戦争で貧しすぎて笑顔がない国（ボスニア）もありました。その差がありすぎて、ぼくはびっくりしました。そして、がっかりしたり、とてもかわいそうな気持ちになったりしました。
- ・イスラエルの人たちの家族に笑顔がないのはどうしてなのか調べたいと思いました。

【3時限】 「ガーナ」ってどんな国 (資料 5 参照)

◎アクティビティー； ガーナクイズ

開発途上国の一つとして、私が訪問したガーナ共和国について、実物投影機で映像を映しながらクイズ形式で補足しながら授業を行った。

ガーナクイズ (15問 一部抜粋)

- 1 チョコレートの生産第1位の国はどこですか
①アメリカ ②スイス ③オーストリア ④日本 ⑤ドイツ ⑥ガーナ
- 4 10-2+3 を間違ったガーナの高校の先生は何%いたでしょうか
①50% ②60% ③70%
- 6 ガーナ野球チームは西アフリカ代表になったのに、アフリカ大会に出場しなかったのはなぜでしょうか
①サッカーのチームが出たため ②お金がなかったから ③興味がなかった ④日をまちがえた
- 7 女子寮にあったこのバケツは、何に使うのでしょうか
①掃除に使う ②洗濯 ③体を洗う ④くつを洗う
- 8 子どもたちは、なぜこんなに楽しそうな顔をしているのでしょうか
①おみやげをもらった ②いっしょに遊んだ ③写真をとってもらえる ④明日学校が休み
- 13 いろいろの形をしたこの入れ物は何に使うのでしょうか
①かんおけ ②ベッド ③子どものおもちゃ ④布団入れ ⑤金庫

【4～5時限】 「青年海外協力隊」とは (資料 6 参照)

◎アクティビティー； クイズ、対話

朝比奈裕子氏（青年海外協力隊OG 1987.8～1989.10、ガーナ理数科教師）を招き、ガーナの現状、青年海外協力隊としての活動内容ややりがい、問題点などを話していただいた。

朝比奈さんは、民族衣装をまとい、杵や臼などの実物やスライドを使って話をされた。

みんなができることとして、「自分の生活を見直してほしい」「ぜいたくをしすぎていないか」「 unnecessary 物を買っていないか」など考えてほしいと言われたことがとても印象的であった。2年間現地で力を尽くし、現在も活動されている朝比奈さんの言葉には、大変重みがあった。

子どもの感想

- ・ガーナは貧しい国で生活は苦しいかもしれないけど、知らない人にもみんな親切で助け合うことが本当に幸せだということがよく分かりました。学校で使われている人がいたら、みんなで先生に許してあげてほしいと頼むそうです。日本ではあまりないことだと思います。先生からもらったあめ玉1つぶも、2人で2つに割って食べるそうです。一人一人がすごく優しくて家族のようです。日本では自分で食べる分が少なくなってしまうから、全部自分一人で食べる人の方が多いと思います。私は、日本よりガーナの人のほうが幸せに暮らしているような気がします。どうすれば、今より日本のみんなが幸せに暮らせるようになるのかな。
- この日本が、ガーナの人のようにみんなが家族みたいになればいいな。
- ・朝比奈さんの話で、青年海外協力隊になる方法やなるまでの準備のことが分かりました。とても興味があります。スライドを使った説明もとてもよく分かりました。朝比奈さんの話はとても楽しくて、大人になったら、私も協力隊員になってガーナへ行ってみたくになりました。しかし、そんなにうまくいかないかもしれません。今の日本のような食生活を世界中の人がしたら、地球がもう2つもいると聞き、びっくりしました。私たちは、とつてもぜいたくなくらしをしていることが分かりました。
- これからも地球のことをよく考えて生活をしていきたいと思いました。

【学習発表会】 「国際理解教育・開発教育」とは (資料 7～10 参照)

◎アクティビティー； ガーナクイズ、ビデオ視聴、プランニング、対話、発表

10月24日（日）博労小学校の学習発表会の折り、国際理解教育展示室を設けた。ガーナ研修での写真や太鼓、服、教科書、お金、カカオ豆の展示や研修中に写したビデオ上映などを行った。また、ガーナでの研修の様子を写真を見せながら発表もした。

その他に5年生が総合的な学習において、「国際理解教育・開発教育」に取り組んでいる様子を展示し、紹介した。

学習発表会ということもあり、全校児童と保護者、地域の方など600名以上の方が、展示室を訪れた。

【6～12時限】 世界の子どもたち (資料 11～12 参照)

◎アクティビティー； 調査、まとめ、対話、発表

今まで学習したことをもとに、さらに自分で追究したいことについて一人調べを行うことを説明した。

課題を作ることが困難な子のために、下記のようなプリントを配布した。

「どんな結果を見たいかおれはぼいいかな」 (一部抜粋)

★外国の暮らしや子どもたちの様子、援助について調べよう！

(「幸せ」とは何かという問いかけをもちながら)

☆課題になりそうなもの(例)

- ・〇〇国(面積、人口、位置、気候、教育、文化、子どもたちの様子、特^{とく}徴、その他)
- ・外国への援助(日本はどの国へどのくらい援助をしているか、お金、物、技術など)
- ・青年海外協力隊って何だろう(隊員の仕事、やりがい、苦勞、隊員になるには、どこの国へ派遣^{はけん})

- ・ユニセフって何だろう
- ・JICAって何だろう
- ・世界の子どもたちの様子（「世界が百人の村だったら」I・IIをまとめる）
- ・4年の総合的な学習の時間「命の学習」の続き
- ・南北問題って何（先進国？、開発途上国？）
- ・世界の子どもたち（子どもたちの様子を国ごとに比べる）
- ・世界の国の人々（国によって衣・食・住・文化の違いなどを調べる）
- ・食糧自給率、地球環境、世界の人口、子どもの権利条約、世界人権宣言

インターネット、「世界が100人の村だったらI・II」のビデオやJICAの資料などを利用して調べさせた。クイズ形式や紙芝居、ペープサートなどを利用して発表会も行った。発表会では、調べての感想を言った後、質疑応答や聞いた子の感想を言う時間も設けた。

子どもの感想

- ・9カ国の衣食住について、ペープサートを使い分かりやすくまとめられていて感心しました。
- ・「子どもの権利条約」の内容が少し分かった。192の国が、その条約を守ると決めたのはすごいと思いました。
- ・毎日4万人の子どもたちが亡くなっていると聞いて驚いた。「食べ物を残したらだめだ」という父さんの言葉の意味が分かりました。

【13～17時限】 みんなが幸せになるために （資料13～16 参照）

◎アクティビティー； ランキング、調査、まとめ、シュミレーション、対話、発表

1時間目に学習したように、再度「幸せ」と感じることに付箋に書き、その後グループで仲間分けを行った。初めに子どもたちの考えた「幸せ」のイメージに、アクティビティーや調査を行うことにより平和、安全、食料等の視点が追加された。

グループでまとめたものは発表会を行い、他のグループとの意見交換をすることにより多様な考えに気づくようにした。

子どもの感想

- ・自分が幸せでも他の国の人々が幸せでなくなるようなことは、本当の幸せでないので書けませんでした。反対に、自分があまり思わなくても世界の人々が幸せならそれでもいいかと思いました。勉強の成果があったと思いました。
- ・1回目のようにすらすら書けませんでした。世界のことを考えると自分中心のことはかけませんでした。

これまで学習したことをもとに「みんなが幸せになるために自分にできることは何か」というテーマで各自考え、それを画用紙1枚に絵でかき表した。また、画用紙の下には、その解説文と学習を終えてのまとめの文を書き、廊下に掲示した。

子どもの感想（まとめの分より一部抜粋）

- ・私は、最初「幸せってなんだろう」という課題の意味が分かりませんでした。しかし、どんどん調べていくと、食べることや寝ることが幸せじゃなくて、家族と一緒にいることが幸せなんじゃないかと思うようになりました。豊かな国だといじめや暴力、殺人などが多いです。貧しい国の人たちは、見ず知らずの人も助け合い、自殺者もほとんどいないそうです。外見だけが豊かでも、人と人とのふれあいがないと幸せではないことが分かりました。
- 私は、これからも人を差別したりいじめたり、暴力をふるったりしないようにしていきたいです。
- ・私は、「幸せ」についてあまり考えたことはありませんでした。この学習をして、「幸せ」は意外にも結構身近にあることが分かりました。世界には、小さいのに働く子がいます。そして、学校にも行けない子がたくさんいます。5歳の誕生日を迎えることができない子たくさんいます。
- 私は、自分の命を大切にしていきたいです。そして、今こうして勉強できることをうれしく思いながら、今後もがんばりたいです。
- ・私は、この学習をして幸せとは何かということが分かりました。母は、「例えば食べ物だとしたら、みんなで分け合って仲良く食べること

が本当の幸せなんだよ」と教えてくれました。

私は、幸せは、楽しけりゃいいと思っていたけれど、本当の幸せは、私が思っていた幸せとは違っていました。「幸せって何だろう」の学習をしてから、私が想像もしていなかったことをたくさん知ることができました。一番勉強になったことは、環境に関することです。私も今まで知らないでたくさん環境をこわしてきていたことを知り、とてもショックでした。

・「幸せって何だろう」と今、考えてみると、「世界が平和なこと」「家族や友だちが健康なこと」「学校に行けること」「寝るところがあること」などが浮かびます。

いつもこんなこんなに身近なところにある幸せなのに、それを当たり前のように思っていて、幸せと感じていませんでした。毎日の生活を当たり前と思わず、「ありがとう」という感謝の気持ちでいたいです。

・私は、初め「どの国も同じ幸せをもって生活している」とばかり考えていたけれど、学習してみると「日本は日本の幸せがあって、他の国には他の国の幸せや楽しみがある」ことに気づきました。例えば、日本では、学校に行き、いっぱい友だちがいて支えてくれるけど、貧しい国では学校にも行けない子がいます。その国の子は、友だちが少ない代わりに、日本よりずっとずっと家族が支えてくれることが心に残りました。

しかし、その支えてくれる親がいない子もいます。だから、私は今までよりもずっとずっと家族や友だち、親せきの人を大切にしていきたいと思います。また、周りの人ばかりでなく、自分のことも大切にしていきたいと思います。自分のことは自分でできるようにやってみたいです。

7 学習を振り返って

開発教育指導者研修会やガーナ共和国を訪問したことで、「国際理解教育・開発教育」の必要性を改めて理解した。

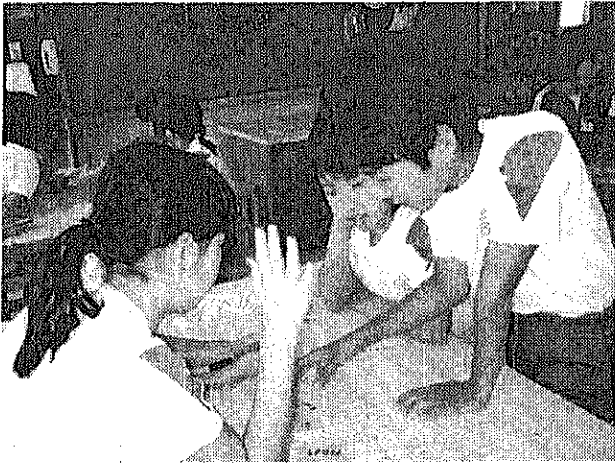
開発教育の指導方法として参加型学習（学習者が、単に受け手や聞き手としてではなく、その学習過程に自主的・協力的に参加することをめざす学習方法）が有効であると指導を受けたこともあり、今まで試したことのないアクティビティーを総合的な学習の時間に導入してみた。総合的な学習の時間のねらいは「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力の育成」であり、この参加型学習のねらいとも合致した学習であると考えたからである。

子どもたちは、一人調べや自分の考えをまとめる時間など自主的に学習に取り組んだ。また、教師や外部講師の話、友達の発表も積極的に聞きながら学習に取り組み「どの国も幸せになってほしい」「一日一日を大切にしていきたい」「今の自分がとても幸せだと気づきました」「将来は、外国に行って日本との交流を図る外交官になりたい」「無駄な物は買わない、食べ残しはしないように気をつけたい」などと感想を述べた。

開発教育は、世界の現状を知り、違っていいこと（文化、生活様式など）、違ってはならないこと（人権など）などを学び、自分にできることを考えることが大切であると思う。

この学習が、子どもたちの毎日の生活を見直す絶好の機会になったことは、うれしいかぎりである。

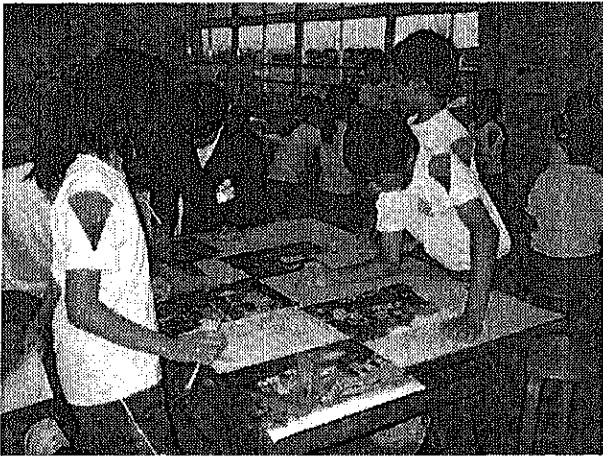
しかし、「みんなが幸せになるため」という課題は、「南北問題」「平和・軍縮」「環境」「貧困」「人権」「食料」「教育」など様々な要素が関連しているため、子どもたちにとって戸惑うところもあった。5年生の段階でどの程度まで踏み込めばいいのか考え、もっとわかりやすく学べるように配慮する必要があるように思う。



資料1 (グループでのランキングの話し合い)



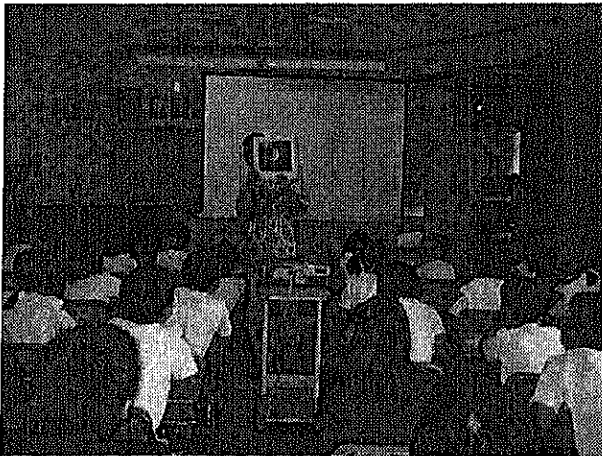
資料2 (グループごとの発表)



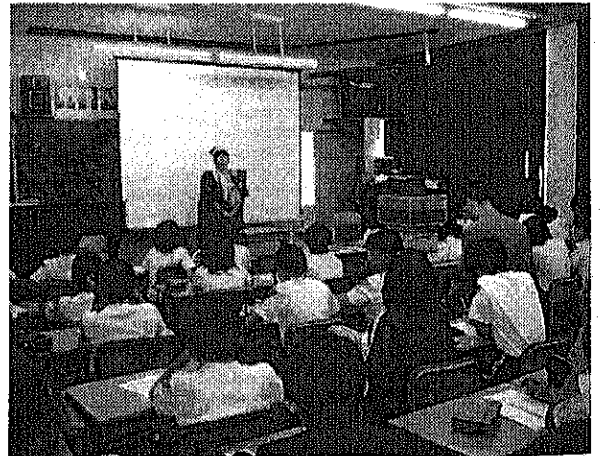
資料3 (5枚の写真「地球家族」のランキング)



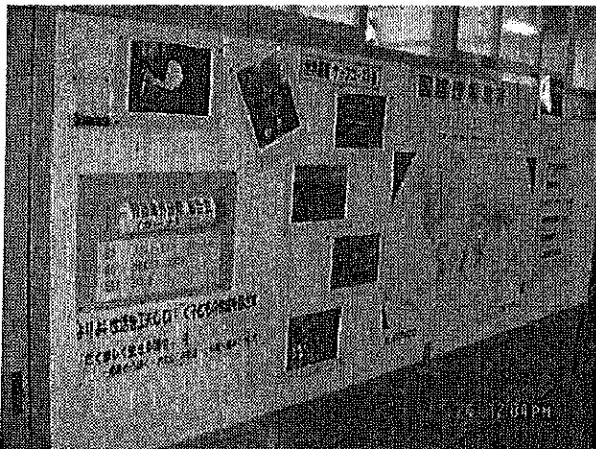
資料4 (グループごとの発表)



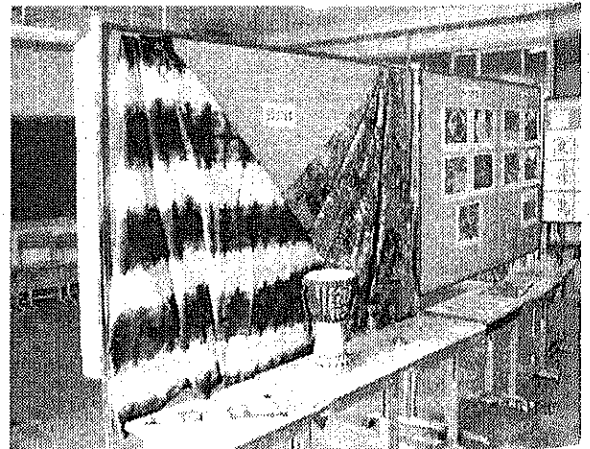
資料5 (ガーナクイズ)



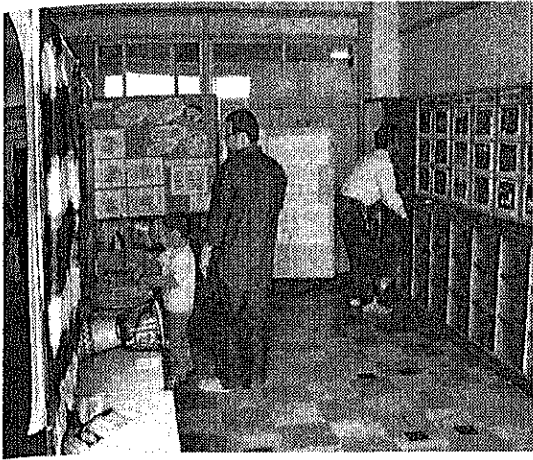
資料6 (青年海外協力隊OG朝比奈さん)



資料7 (学習発表会展示 廊下)



資料8 (学習発表会展示 太鼓、教科書など)



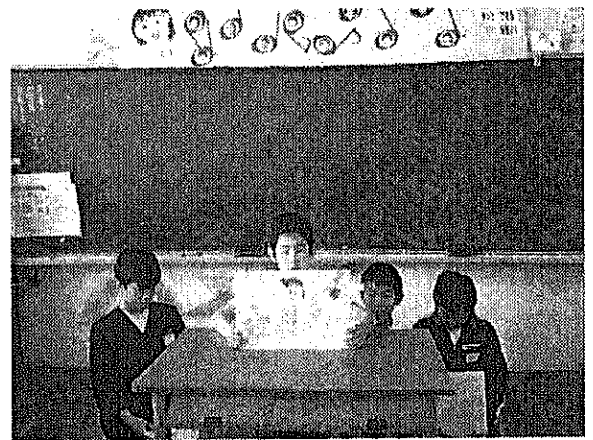
資料 9 (学習発表会 写真など)



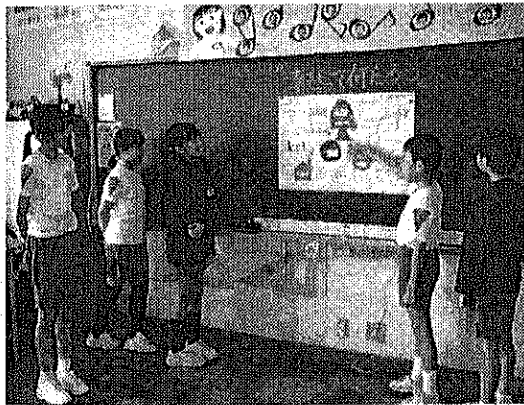
資料 10 (実物投影機を使つての説明)



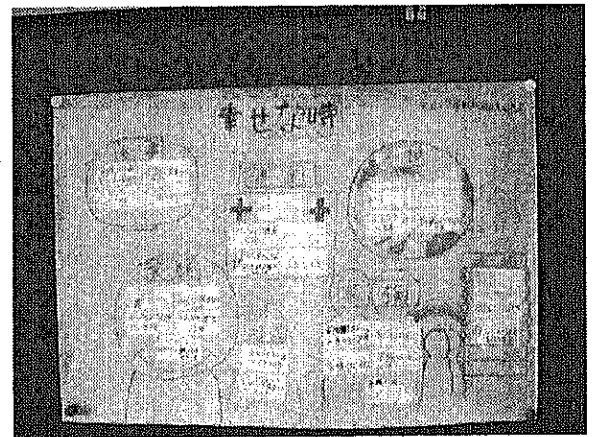
資料 11 (ペープサートを作つての発表)



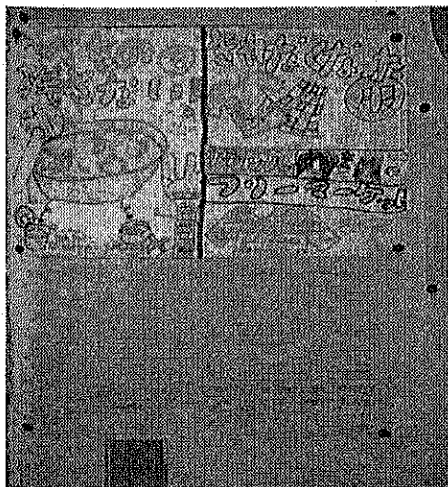
資料 12 (紙芝居を作つての発表)



資料 13 (「幸せ」ランキングの発表)



資料 14 (付箋紙を使つてのKJ法)



資料 15 (「自分にできること」ポスターとまとめ分)



資料 16 (学習のまとめの廊下掲示)

平成16年度 教師海外研修（派遣国：ガーナ）実践報告書

1. タイトル

開発途上国を通して自分の道を考える。

2. 氏名 寺田仁

静岡市立高等学校定時制課程 担当教科：理科・情報

3. 実践教科：総合的な学習 時間数：4時間

4. 対象生徒・学年 2年 15名

5. カリキュラム案

(1) 実践の目的

本校は、中学時に長期の不登校によって学力を十分持っていない生徒や他の高校にいったんは入ったもののなじみずに中途退学した生徒、人との付き合いが不得手な生徒など多様な生徒が在籍している。多くの生徒はアルバイトなどで就業体験をしている。

しかし、就職希望者の全員が卒業後に定職につくわけではない。卒業後は進学就職するものがある半面、毎年必ず数名がフリーターとなってしまう。こうした卒業生が今社会問題になっているニートにならないとも限らない。そこで、開発途上国の現状と自分の生活と対比することによって働くこととは何なのか、幸せとは何なのかを考え、生徒自身の将来に向けた目標を持つことを目指す。これによって生徒個々の生き方・あり方考える機会としたい。

(2) 授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限 ガーナを知る 開発途上国について興味を高めるとともに、先入観のあることに気づく。	ガーナを通して開発途上国の様子を知る。	写真 プリント パワーポイント カカオ豆 チョコレート インターネット
2時限 開発途上国の実状 開発途上国の実状を知り、自分のできることを考える。	開発途上国の実状をインターネットで調べる。	インターネット プリント ビデオソフト
3時限 援助の現状と日本とのつながり 日本が世界の一部であることを知る。	JICAの活動、協力隊を軸に日本とのつながりを紹介する。	写真 パワーポイント ビデオソフト プリント
4時限 自分の将来 将来を決める自由があることを知り、自分の将来の目標を持つ	ビデオの登場人物と自分との生活の様子を対比する。	プリント ビデオソフト

授業の詳細

1 時限 ガーナを知る

1. 導入：カカオ豆を見せて「これは何でしょう？」と問い、チョコレートの原料カカオがガーナから輸入され、日本とガーナとのつながりを確認する。
 2. 「ガーナといえば？」の質問に対する生徒の返事をまとめたものを配布。(フリーメールを使って事前に生徒それぞれが教員宛に送信した内容を印刷したもの)
 3. パワーポイントを使って、クイズ形式でガーナ（開発途上国）についての理解を持ち、関心を高める。その過程で開発途上国についての先入観があることに気づく。また、開発途上国の様子的一端を知る。
 4. インターネットによる調べ学習を通じてガーナ（開発途上国）についての理解を深める。《異文化理解》
 5. 発展的な学習として、「ガーナの人に日本を紹介しよう」をおこない、自国の文化・伝統・歴史などを見直すきっかけにする。《自国理解》
- * 生徒の反応：開発途上国についての断片的な知識だけでそのイメージを固定化していた生徒が多かった。「途上国の人々の明るい笑顔が日本にはない。」と気づいた生徒もいた。知らないことが多すぎると言った生徒もいた。
 - * 改善したいところ：発展的な学習では、「日本の何を紹介すべきなのか」なかなか書けない者が多かった。京都・奈良などの紹介だけでなく、今の生活を含めて相手の立場に立った紹介を考えるように促した。

2 時限 開発途上国の実状

1. インターネット (<http://www.jica.go.jp>) による調べ学習を通じて他の開発途上国の実情を知る。
また、ビデオ（「jica くん の 協力 隊 っ て な ん だ ろ う ？ 」 jica 静 岡 より 借 り る ） を 見 て、生徒間の知識のばらつきを少なくする。
2. この時間の感想を書き、次の時間につなげる。とくに「開発途上国に何が必要か」について自由に記述する。
* 生徒の反応：先進国日本と途上国とが違うことは知っていたが、具体的に何がどう違うのか初めて知る者も多かった。中学校間で開発教育に関する知識の格差を感じた。
「開発途上国に何が必要か」の質問には、水・医療・学校・教育・男女平等・食糧などがあがった。
* 改善したいところ：乳幼児死亡率・GDPなどの比較データを詳細に見てその違いに驚く生徒が多かった。しかし、数値だけでなく、映像などでより具体的にその数値の違いがどのように生活に反映するのか伝えたかった。

3 時限 援助の現状と日本とのつながり

1. 「開発途上国に何が必要か」について生徒の意見を紹介する。
緊急には水や食料が重要だが、長期的には現地の人々に根付いた技術移転などの

援助が必要であることに気づく。

2. 実際に行われている日本の援助（JICA の活動）を紹介する。（ビデオ：地球家族～JICA Report～ダイジェスト 人々に大地の恵みを 青年海外協力隊の闘い）—jica 静岡より借用
3. 青年海外協力隊について紹介し、彼らの生き方について知る。自分との対比をさせ、自分の生き方・あり方について考える。
4. 自分たちのできる援助は何か考える。

* 生徒の反応：青年海外協力隊の存在をはじめて知った生徒もいた。ほとんどの生徒が、協力隊員の生き生きと活躍する姿に感動していた。

援助について考えた事がなかった生徒が、「何か身近にできる援助が何かあるのではないか。」と考え始めた。また、協力隊員のようにいかなくても身近に何かできることがないかと模索する生徒がいた。

普通に生活して、1日楽しく過ごしているだけの自分に気づき、「人のために何かやりたい」と新しい自分を生み出そうとする生徒が出てきた。

4 時限 自分の将来

1. 自分の日常生活のタイムテーブルをつくる。（プリント）
2. 「児童労働」についてのビデオを見る。（TVで放映された「世界がもし100人の村だったら」よりインドの児童労働の実態）
プリントにビデオに登場した子供の1日の生活を記入して、自分の1日の生活と比較する。どんなことに気づいたか感想を書く。働くこと、幸せとは何かを考える。
3. ビデオに登場した子供のもつ「将来の夢」と自分の持つ将来の夢を対比する。これによって、自分の将来に自由度があることに気づき、将来に目標を持って生活するようにする。
4. まとめと感想を書く。

* 生徒の反応：生徒の感想より

- ・ 時間の大切さを感じた。
- ・ 暇だからといって遊び歩く自分との違いが大きすぎる。
- ・ 自由って一体なんだろう？
- ・ こんな生活をしている子供が世界にいることが信じられない。
- ・ 自分で将来が決められるのに、今の私は何も努力をしていない。

将来設計を考えたこともない生徒がほとんどであった。「将来の夢なんてない」と妙に悲観的な生徒もいた。どちらかといえば、将来に対して漠然とした不安を持っている生徒が多い。学校としての進路指導のさらなる必要性を感じた。

全体を通して、日本の青年が海外で不自由な生活ながら生き生きと活躍している姿に勇気づけられた生徒が多いようだ。また、将来設計の自由度を各自が持ち合わせていると感じ取ってくれたと思う。身の回りの世界だけに閉じこもりがちな生徒は、開発教育を通して広く世界に視野を広げることで自分の将来や生き方について考える機会となるのではなかろうか。

「開発途上国」ってどんな国？

開発途上国のひとつ ガーナ を例に見てみましょう。

「ガーナといえば？」の質問に対する皆さんの答え(e-mail)

- 黒田 龍聖さんは言いました。「チョコレートだと思えます。」
- 鈴木 一郎さんは言いました。「ガーナってなに???
- 真壁 一騎さんは言いました。
 - 1, 確かガーナ共和国。
 - 2, 南アフリカの方だと思う。
 - 3, サンコンさんの出身地。」
- 市原 花子さんは言いました。「チョコレートしか思いつかない...です。」
- kamui gakuto さんは言いました。「ガーナのイメージと言えば、身体能力の優れた人が多いところな感じ。サッカー？ 黒人さんで、綺麗な顔立ちの人が多い□□」
- doumoto tomoko さんは言いました。「ガーナ。アフリカ(?)、黒人、動物がたくさん、自然もたくさん、カカオがとれる(?)かなあ。」
- 松岡 雄英さんは言いました。「ちょこれえと!!」

ガーナについて調べてみよう。

発展学習

ガーナの人に日本を紹介するとき、あなたは何をどのように紹介しますか？

他の開発途上国の実情を調べてみましょう。

Jicaのホームページ (<https://www.jica.go.jp>)

みんなが学ぼう → クラブルーム → ほくら地球調査隊

(興味のあるものを見てみよう)

わかったことをまとめてみよう。

開発途上国には何が必要だと思いますか

「開発途上国には何が必要だと思いますか？」に対する皆さんの考え

- もっとどこでも平等な生活 (安定) ができるように決まりを作るべき
- 水を安全なものにする設備
- 水道
- 必要な知識を教える人が必要
- 金
- お金・食料・森
- 生活がまともにもできるための食糧
- きちんとした医療施設
- お金・水・知恵 みんな平等にしようと思う心
- 男女平等
- きちんとした教育
- 学校

みなさんの意見は以上です。では、実際に行われている我が国の援助を見てみよう。

日本の援助・Jicaの活動 (ビデオ)

青年海外協力隊の人と自分の生き方・あり方とを比べてみよう。

自分のできる援助はなんだろう。

- すぐできること(短期)

- 長い時間がかかることができること(長期)

自分の生活のタイムテーブルを作ってみよう。

①書く項目は学校での学習、アルバイト、自由な時間(趣味・遊び)、手伝い、睡眠です。

		午後											
		4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12	

ビデオの少女の一日

		4	6	8	10	12	2	4	6	8	10	12

②それぞれの項目ごとに時間を計算しましょう。

項目	自分の時間	順位	ビデオの少女
学校での学習			
アルバイト・手伝い			
自由な時間(趣味・遊び)			
食事・入浴など			
睡眠			

③完成した表を見て、どんなことに気づきましたか？

私のこれからの人生設計

これからあなたの人生はどのようなようになっていくでしょうか？どのようなになりたいでしょうか？次の事項を中心に書き込んでみましょう。

進学・就職・結婚・出産・その他自分にとっての重要な事項


年齢	20歳	25歳	30歳	35歳
主な事項				

ビデオに出てくる少女の一生と比べてどうだろうか？


あなたの将来の夢は何ですか？

ビデオに出てくる少女の夢と比べてどうだろうか？

Ghanaについてのクイズ



第1問
ガーナはどこにある？




この計算の答えは？
 $10 - 2 + 3 =$

問4
10-2+3の計算ができた(正解率70%)
人はつぎのうちだれ？

- 1:小学生
- 2:中学生
- 3:高校生
- 4:大学生
- 5:元生


ガーナといえば・・・
チョコレート ...といえは



第2問
チョコレートの原料は？




正解は




- 5番
しかも理数科の教員です。

第3問
これは何でしょう？



ガーナのスポーツ予算の95%
がサッカーに配分



平成16年度 教師海外研修（派遣国：ガーナ共和国）実践報告書

1. タイトル 生き方を考えるー国際理解を通してー

2. 氏名 中谷 司

学校名 金沢市立港中学校 担当教科 総合的な学習の時間 社会科 道徳

3. 実践教科 総合的な学習の時間 社会 道徳 時間数 55時間

4. 対象生徒・学年 3年生 対象人数 178名

5. カリキュラム案

(1) 実践の目的

地球のグローバル化が進み、日本へ来る外国人も急増している。また、さまざまな地球規模的な社会問題が発生し、それを解決していくことが急務となっている。

本校周辺でも外国人と接することが、だんだん増えてきた。しかし、本校の生徒達は、外国人に対しての偏見や差別は少なくない。また、「仲良くしたい」と考えているが、どのように接すればよいのか、わからない生徒が多い。そこで、総合的な学習の時間を中心に世界の問題点に気付き、それを「他の人に知らせたり、解決する為にどうすればよいか。」という事を考えることによって、自分の生き方に生かしてほしいと考えた。

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1～22時限 (22時間) 日本の歴史文化 修学旅行を通して日本の歴史や文化に触れ、よさを学ぶ	(1)見学・体験先の歴史文化を事前に調べる。 (2)見学先を訪ね、見聞を深めたり、日本の伝統文化の体験をする。 (3)学習したことを旅行記にまとめる。	(1)神戸・京都観光マップ (2)ガイドブック (3)体験学習先一覧 (4)ワークシート
23～35時限 (13時間) 世界の問題 世界の文化や問題点について考えを深める	(1)日本及び各国の社会問題について話し合う。 (2)日本に住む外国人（ブラジル）から話を聞く。 (3)世界の社会問題について調べる。 (4)青年海外協力隊員の話聞く。	(1)国際交流員（ブラジル） (2)青年海外協力隊員 (3)市図書館から借りた本の人々の写真 (4)カンボジア、ジンバブエの人々の写真
36～42時限 (7時間) 国際問題と地球市民 国際人類がかかえている地球的な課題と内容についてどのような努力がされているか理解する。	(1)「地球ビンゴ！」の学習活動から「クラスの中の世界」を体験する (2)いろいろな地球環境の問題を具体的な事例を通して理解する。 (3)ガーナの人々の生活を知り、ガーナの社会問題に気付く。 (4)国際協力で大切なものを知る。	(1)国際交流員（ブラジル） (2)青年海外協力隊員 (3)ガーナの写真 クイズ問題 ワークシート 授業の様子写真 (4)ガーナの写真 ワークシート パネル 青年海外協力隊員
43～55時限 (13時間) 人類共通の願い 人類共通のねらいをさまざまな方法で他の人に伝え広める	(1)人類共通の願いを伝える方法を選択 → 練習 → 発表する。 ○ 人権・・・ゴスペル ○ 環境・・・創作ダンス ○ 平和・・・劇 (2)社会問題を解決する為の方法を考える。 (3)ガーナの人々の様子から、人権を理解する。	(1)ゴスペル講師 (2)ワークシート (3)ワークシート 写真

6. 授業実践例

(1) 総合的な学習の時間 <45 時間>

①ねらい

日本らしさと世界にある様々な問題を知り、それらを知らせたり、その解決方法を考えることからこれからの生き方を学ぶ。

②日本の歴史・文化 (22 時間)

修学旅行を日本の古都である京都を訪ね、平安時代から残る文化遺産の見学や、伝統文化体験を通して世界の中の「日本の文化」について学んだ。

③世界の問題 (13 時間)

海外協力派遣の経験のある渡村先生からジンバブエ視察のお話を伺い、発展途上国の現状(虐待・エイズ問題など)について考えた。その後、各自が世界の社会問題について図書やインターネットで調べ、他国の現状について学んだ。

国際交流員のクラウディオさんからブラジルの貧富の問題、日本人の外国人を見る目について伺った。また、青年海外協力隊員の辻かおりさん(本校出身・服飾)からはカンボジアの就学率や地雷について伺った。お二人から各国の良さの問題点、日本の良さの問題点についてお話を伺い、国際的なものの見方・考え方を学んだ。



< 討論の様子 >

○クラウディオさんのお話から

貧富の差がブラジルの社会問題の根源で、外国へ出稼ぎに行く人も多い。でも、ブラジルの人は毎日を楽しみ暮らすためにいつも笑顔絶やさないようだ。そんな人達を差別するのは許せない。また、ブラジルの人は外国人を外見で判断したりしないようだ。日本人は外国人との接し方を考え直していかなければならない。

○辻 かおりさんのお話から

カンボジアではまだ地雷が残っていて付近の人々は恐怖に怯えながら歩いているようだ。早く地雷を全部撤去しないとイケない。また、自分達は学校に通うのは当たり前だが、カンボジアの子供達は学校へ通いたくても通えず、働いている子達がたくさんいると聞き、「学校に行かせてやりたい」と思った。私にできることがあればしてあげたい。



< ゴスペルの合唱 >

学級で世界の社会問題解決(人権・環境・平和)に向けての方策について話し合い、港中や学年でも取り組めることについて意見をまとめた。その後、「国際理解シンポジウム～私達にできること～」を開催し、校長・教頭・青年海外協力隊員 林 真砂美さん(看護師・フィリピン派遣)・各学級代表で自分達にできることについて話し合い、募金活動をすることに決定した。また、

学習のまとめとして国際理解についての考えを作文にまとめ、学級代表が発表した。

③人類共通の願い (10 時間)

人権・環境・平和の三分野に分かれ、人類共通の願いについて表現活動を行い、文化祭の舞台で「国際理解～私達が伝えたいこと～」をアピールした。また、リーダー会が中心となり、シンポジウムで決定した募金活動を実施し、集まった36,603円をエイズで苦しむ子供達のワクチン購入などに役立ててもらうため、ユニセフに送った。

ア 人権 ゴスペルの歴史や込められた思いを岡本さん(本校保護者)・山口さん(大学生)から学び、人権の尊さをゴスペルの合唱で表現した。

イ 環境 海・空・森をテーマに環境を大切にしようという思いを創作ダンスで表現した。

ウ 平和 戦争で家族を失い、残された者の悲しみを通して戦争の愚かさを劇で表現した。



<募金活動の様子>

(2) 社会科 <7 時間>

社会科の実践例「ガーナを通して国際協力を考える」(2 時間)

①ねらい

青年海外協力隊員の活動から国際協力の現場の苦勞と喜びを知り、国際協力は物や資金を提供するだけでなく、相手国の文化、習慣など理解し、相手国の立場を考えた技術援助などを進めなければならないことがわかる。

②授業の流れ (2 時間)

学 習 活 動	支 援
1. 4 枚の写真を紹介する。 2. 4 枚の写真を並び替えて、「青年海外協力隊員」の物語を創ろう。 3. 創った物語を発表しよう。 4. 日本の国際協力の様子を紹介する。 5. 青年海外協力隊員の苦勞話を聞く。 6. 国際協力で大切なことを班毎に話し合う。 7. 話し合ったことを全体で発表する。 8. 青年海外協力隊員から国際協力で大切なものは何かを聞く。 9. 国際協力で大切なものを、授業からまとめる。	○4 枚の写真を紹介する。 (①協力隊員の笑顔 ②使用されていないパソコン ③笑顔の子ども達 ④ガーナの中学生) ○ワークシートに写真を並び替えながら物語を作る。 ○青年海外協力隊員が成功・失敗した物語を紹介する。 ○4 枚のパネルで海外協力隊員の活動の様子を紹介する。 ○青年海外協力隊員から海外で活動することの苦勞や喜びを聞く。 ○出された考えを大切な順に画用紙に書く。その理由も発表する。 ○協力隊員が考える大切なものを聞く。 ○国際協力で大切なものが何かをワークシートに書き発表する。

③授業を終えて

ア 物語創り使用した4枚の写真について

生徒たちに協力隊員の喜びや苦勞を知ってもらう為に、ガーナでの4枚の写真を用意し、それ並べ替えながら「協力隊員の物語」を考えた。これまでの学んだことを生かしたいろいろな物語を考え出せた。しかし、物語が単純であったり、考え出すことができなかった生徒もいた。＜①②③④＞

イ パネルについて

使用した4枚のパネルはJICA北陸から貸していただいた。パネルは身近な金沢出身の協力隊員の活動を紹介するものであったため、生徒たちに協力隊員の苦勞や喜びが伝わった。

ウ 青年海外協隊員

JACA金沢の職員である柴田さんをゲストティーチャーとして授業に参加していただいた。教師以外の話を教室で聞くことはめったにない。生徒は多少の緊張感があったがすぐに打ち解けた。本物の協力隊員の話聞くことは何よりも説得力があった。事前に話すことを打ち合わせていたこと、これまでの講師経験があったことから要点を押さえたわかりやすい話であった。また、ゲストティーチャーの民族衣装は話をより効果的なものとした。＜⑧⑨⑫＞

○生徒の感想から

協力隊員は大変な仕事だ。言葉の分からない国へ行っている教えるのだから。相手のことも考えなくちゃいけないし。私は外国で協力隊員を少しやりなくなりました。けどこんな少しの気持ちで言っても向こうの人に迷惑がかかると思うし、この仕事をやるには覚悟がいると思った。この仕事をやっている人は本当に人の役立つことがしたいって人なんだ。……………

(3) 道徳 <3時間>

授業の実践例Ⅰ「無人島ゲーム」

①ねらい 無人島に生活することで何が必要なのかを考え、国際協力のしかたに気付く。

②授業を終えて

4人班で行った。ゲーム感覚で生徒は楽しく活動できた。電気製品やゲームを持ち物の上位に書く生徒もいたが、話し合いが進むにつれそのことを他の生徒に指摘されそのことが間違いであることに気付いた。話し合いが深まるにつれ、食料や水の大切さがその国の経済水準によってちがうことがわかってきた。

○生徒の感想から

どんな状況でも食べ物、寝る所は大切だ。発展途上国への援助がなかなかうまくいかないのは、日本が同じ立場になっていないからだと思う。新潟の地震とかで、発展途上国と同じ立場に立てたと思う。新潟では食べ物を惜しがっているし。

授業実践例Ⅱ 「人権って何だろう！」(思いやり)

①ねらい

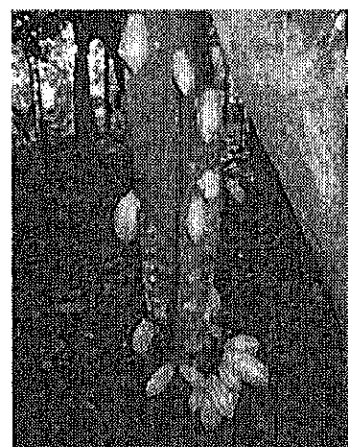
ガーナの人々の生活の様子から、人権の意味を知り誰に対しても温かく思いやりの心を持って接することができる。

②授業の流れ

学 習 活 動	支 援
1. 世界人権週間について知る。	○人権とは私たちがいつも願っていることである。 ①平和に生きること ②幸せになること
2. 人権とは何かを発表する。	○食べ物やものが不足していてもそれに負けないで同じ世代の子が頑張っていることがわかる。
3. 青年海外協力隊員が辛くてもあきらめないのはどんな気持ちからか。	○自分の自身のこと（高価値）から世界（低価値）へ高めたい。
4. 集会での話を振り返りながら教室で人権について話し合おう。	○帰りの会や学年便りで感想を紹介し、お互いに尊重することは大切だと言うことを気付かせる。

③授業を終えて

12枚の写真を使ってガーナの人々の生活を紹介した。生徒の興味を引き付けるために意外性のある写真を多く使用し話を進めた。また、「カカオ豆」の本物を提示しそれが「木のどこにできたものか」というクイズなどを出しながら、生徒の興味を引き付けた。そして、そのクイズの確認として写真を利用した。〈写真⑥⑦〉



〈カカオ豆の木〉

クイズの例 カカオ豆は木のどこにできるか？

- ①木の根元 ②太い木も幹 ③葉の付け根 ④枝の先
正解は②である。しかし、ほとんどが③、④と答えた。

そこで実際の姿を写真で示すと驚きの歓声が上がった。

また、アメリカに黒人がいることと、エルミナ城の砲台からガーナ海岸から新大陸へ送られた奴隷のことについて説明した。子どもたちは同じ人間でありながら動物のように扱われた人々の悲しさを感じてくれた。〈⑩⑪〉しかし、集会後、教室へ帰ってから人権のことについて感想文だけを書くだけで、人権のことについて深めることができなかったことが課題として残った。

○授業を終えた生徒の感想から
 ・・・・ガーナの人たちは苦しい生活だからこそ「学校に行きたい」とか「いつも笑顔」に
 られるのではないか。・・・
 人権宣言ということがあったけど、そういうのは関係なくみんな自由で平等になれる時が来ると
 思う。日本も昔は発展途上国であった。お金がないけれど心が富んでいる時があったに思う。だが、
 今は心が病んでいるようになっている。・・・

6. 成果と今後の課題

- (1) 生徒達は国際理解・ボランティアとは、自己満足でなく、相手が必要としていることとでなければ意味がないことを学んだ。また、身近な生活から人権・平和・環境について問題意識を持って行動することを学んだ。
- (2) 青年海外協力員の人たちをゲストティーチャーとして授業に参加してもらったことは、生徒に大きな興味を抱かせ楽しくわかる授業につながった。

- (3) 教師が実際に現地へ行き体験したことや写真、カカオも豆などは生徒に説得力がある生きた教材となった。このような研修の機会が増えることを望む。
- (4) 自分の生き方について学んだことは、今後どのように生かして行くかが一人ひとりの課題である。

写真資料



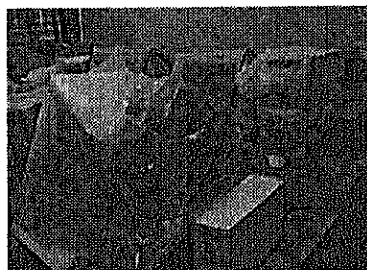
① <ガーナの中学生>



② <ガーナで活躍している隊員>



③ <ガーナの子供たちの笑顔>

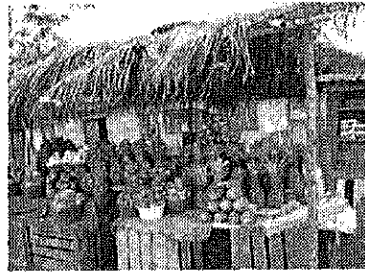


④ <使われていないパソコン>

社会科の授業の中では、この4枚の写真を使って「国際協力で必要なものは何か」について考えた。



⑤ <道路で遊ぶ子ども>



⑥ <道路に並んだ露店>



⑦ <200年前のトンボ玉>



⑧ <村での検診>



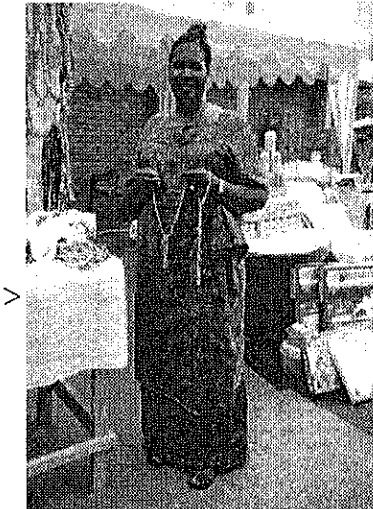
⑨ <女性は荷物を頭に載せて運ぶ>



⑩ <奴隸をつなぐための鎖>



⑪ <DOR OF RETURN と書かれた奴隸を運ぶためのドア>



⑫ <ガーナで見かけた女性>

平成16年度 教師海外研修（派遣国：ガーナ）実践報告書

1. タイトル 身近なものから世界を知ろう

2. 氏名 花房 範子

学校名 三重県立白子高等学校 担当教科 英語

3. 実践教科 英語 時間数 9時間

4. 対象生徒・学年 2年生 対象人数 11名

5. カリキュラム案

- (1) 実践の目的
- ①身近な身の回りのものを通じて世界とのつながりに気づく。
 - ②世界の不均衡な構造や日本の位置に気づく。
 - ③不均衡から生まれる諸問題や原因について考える。
 - ④これから自分はどうすべきか考える。

(2) 授業の構成案

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1限目・2限目 身近なチョコレートがどのように出来るかを知る。	(1)チョコレートの原料のカカオについて写真をみながらカカオ豆の出荷までの様子を知る。 (2)カカオ豆からチョコレートを生産するまでについての英文を読む。	(1) カカオの木、カカオの実、出荷の様子の写真 (2) チョコレートのつくり方について英文教材
3限目 カカオ、チョコレートを題材に世界の貿易の様子を知る。	(1) カカオ豆、チョコレートを題材にオリジナル版貿易ゲームをする。 (2) カカオやチョコレートの売買の時は ALT の先生に英語を使って交渉する。	(1) ハサミ、クレヨン(茶)、定規、鉛筆、紙など
4限目 貿易ゲームで起こったことの振り返り	振り返りシートを使ってグループで考えをまとめて発表	振り返りシート
5限目 (1)カカオ豆、チョコレートを題材に南北問題に気づき、南の国の現状を知る。 (2)ガーナ(カカオ生産国)の現状を知る。	(1) チョコレートの生産国、カカオ豆の生産国をそれぞれ別の色を使って塗り、そこから生徒たちがわかったことを出し合う。 (2)カカオ豆の生産国の代表としてガーナをとりあげ、その経済、教育、保健衛生、文化などについてパワーポイントで写真なども使って説明する。	(1)ワークシート (2) 世界地図 (3)パワーポイントで作ったスライド
6限目～8限目 世界の不均衡の現状を知り、自分たちに何が出来るかを考える。	(1)『100人の村から』を英文に訳した <i>A Village of 100 People</i> を読む。 (2)これまでの授業や <i>A Village of 100 People</i> を読み、学んだことを振り返り、世界の経済の不均衡をなくすために自分ができることを友達とも相談しながら考える。	(1) <i>A Village of 100 People</i> 教科書 New Stage(池田書店)pp.68～70 (2)自分ができることを書くためのワークシート
9限目 世界の不均衡をなくすために出来る方法を新たに知る。	(1)フェアトレードについてまとめたビデオを見る。 (2)それを元に講師の先生の話聞く。およびアクティビティ	(1) ビデオ(NHK こどもニュースより) (2) フェアトレードについてよく知る方に講師として来ていただく。

＜身近なチョコレートの製造過程を知る 1・2 時限目＞

発酵やローストをする前のカカオ豆やカカオの実、カカオ豆を倉庫に運びこむ様子などを写真でみてから英文でどのようにチョコレートができるのか製造過程書いてあるものを読んだ。

＜貿易ゲーム 3 時限目＞

既存のシュミレーションゲーム「新・貿易ゲーム」を参考に、製品はチョコレートとカカオ豆をイメージし、国はカカオ生産国（開発途上国）、チョコレート生産国（先進国）を想定したシュミレーションゲームを行った。

（やり方）

- 1) 11人を分け、3～4人のグループを三つ作った。
- 2) Bチームには鉛筆、ハサミ、定規とお金少しを渡し、残りの2チーム（A,C）には白い紙とクレヨンと小額のお金のみを渡す。
- 3) Bチームはマーケットから茶色の紙（カカオ）を買って、それを加工（四角くきれいに切る）して製品（チョコレート）を生産し、マーケットに高く売る。A,Cチームは白い紙を茶色く塗ってカカオを生産し、マーケットで売る。
- 4) 途中、先進国には新技術の発明と説明し、厚紙で作ったハートの型を渡す。ハート型チョコの値段は高くした。
- 5) また、内戦が起こったとして開発途上国のうちのひとつのチームからのカカオ輸出を一次的に止めたり、茶色の紙の作りすぎということで値段を下げたりした。
- 6) また援助と称して、5分間のみ鉛筆、ハサミ、定規を貸し出したりもした。
- 7) 最終的にいくらもうかったか集計し、勝因、敗因や実際の貿易と照らしあわせて考える。

＜貿易ゲームの結果を受けての振り返り 4 時限目＞

ワークシートを使ってグループごとに結果からわかることなどを話し合っ発表した。

生徒のまとめより

*結果についてなぜそのような結果になったのか考えてみよう。（勝因や敗因）

Aチーム (最初)150セディ→(最後)3400セディ *注:セディ(ガーナの通貨)

内戦が起きた。けどNEW商品ができた。そしてはさみと定規がきた。けど5分後にはなかった。内戦が起きた。はさみ・定規の援助が5分間。新しい商品を開発した。急に内戦が起こされてまってその間にホワイトチョコやトリュフ etc いろんなnew商品が開発されていた。

Bチーム (最初)300セディ→(最後)8050セディ

最初にお金とはさみと定規が入っていたから。頑張ったから。

うちらがめっちゃ頑張ったから。最初に与えられたものがよかったから。

Cチーム (最初) 150セディ→(最後)3150セディ

紙をいっぱい作りすぎて値段が安くなった。はさみと定規がなかった。最初の金額が少なかった。いっぱいあって値段がさがった。

*今日のゲームをやってみて「貿易」において出てくる問題について考えよう。

同じものが増えると物価は下がるし、同じものが少ないと物価が上がるから売る側も買う側もよく考えないと大変だ。物価上昇 etc 内戦で他の国の物価上昇。手工業か機械工業。作りすぎると安くなる。どこかの国が内戦すると物価が高くなる。先進国はお金と技術をもっていたから強い。同じものがたくさん輸出されると輸入先が値段を下げてきたり輸入しなくなってしまう。

*今後、日本として、またあなた自身としてどのようなことをして行くべきか考えよう。募金、新しいものを作っていく。物価上昇の時期に売る。物価下落の時は頑張る。発展途上国は労働力がたくさん必要だけど安い給料で大変。よく考えよう。技術+お金+物資の援助。募金。物価の急激な上がり下がりがなくなるようにする。発展途上国に技術を教えてあげる。

*生徒の感想

めっちゃ楽しかった。先進国は技術とお金をもっていたから強い。チョコ作るのに手汚れたりとかしたけど楽しかった。こーゆー授業が一番楽しいです。またやりたい。たまにこんな授業はおもしろかった。貿易が実際によくわかった。大変だった。発展途上国はつらかった。やっぱりはさみと定規がほしかった。ずっと色をぬっているのはめんどくさいし疲れた。授業より今日のやつのが面白いし・・・やる気がでてくる。

大変だった。価格の上下が激しいこともわかった。色をぬるのがめんどくさかった。

<南北問題に気づき、カカオ生産国ガーナの現状を知る。5時限目>

*この時間と同じ授業を1年生6クラスでも行った。

パワーポイントで制作したスライドを使いながら、カカオの生産国の代表としてのガーナの経済、医療、教育について説明した。

最初にカカオの生産国とチョコレートの生産国の分布状況を地図に記入し、そこから南北問題と経済の不均衡への気づきを引き出し、原料輸出国の現状としてのガーナ紹介という展開の授業を行った。

導入 身近なチョコレートについて知る。

発問 チョコレートが好きか、どれぐらい食べるか。チョコレートは何からできているか? など

- ① カカオ豆の流通や倉庫へ運ばれる様子、出荷の様子を理解する。(映像)
- ② 日本はガーナから多くのカカオ豆を輸入していることを理解する。

展開 世界全体に視野を広げる。

- ①カカオ豆の生産国を確認して地図でみつける。 ②チョコレートの生産国を地図でみつける。

発問 地図を見て何か気がついたことはないか？

生徒の反応→ カカオ豆を作っている国とチョコレートを作っている国は別々、カカオ豆を作っている国は南に固まっている etc

発問 カカオ豆を作っている国とチョコを作っている国とどちらがもうかっていそうか？

- ・ 世界の富の分配について説明

(100人の村から アクティビティを利用) ペットボトルの水を見せる

発展 カカオ豆の生産国のひとつガーナの状況を知る。映像で説明

- ① 経済レベルについて
- ② 教育事情について
- ③ 医療事情について

結論とまとめ

なぜこのようなことがおこっているのかについて考え、解決策についても考えワークシートに記入。

植民地支配の歴史について、チョコレートの会社の数などについても説明

<世界の不均衡を知り自分ができるところを考える。6～8時限目>

教科書にある *A Village of 100 People* を読み、最後に問題解決のために誰がどんなことをしていくべきか生徒たちに考えさせその考えをワークシートに書き込むようにした。友人と相談してもよいこととし、特に自分ができるところを必ず書くようにした。

<フェアトレードについて知る 9時限目>

これまで何度も生徒たちには自分たちができるところを中心にとしたら世界の不均衡を解決できるのか問いかけてきた。それに関してフェアトレードの考え方は生徒から出されることはなかったので、その概念について勉強した。最初にNHK こどもニュースでフェアトレードの説明をしていた部分を録画してあったものを見て、次に講師の方に来ていただき、アクティビティとしてグループで「レストランを開く」「家を建てる」「洋服を作る」のにそれぞれ必要なものをカードに書き出し、グループ間でひとつずつ交換した時、異なる値段をつけて交換した時の差を通じていかに経済の不均衡が生まれるのか仕組みについて学んだ。

<9回の授業を終えて最後に生徒が書いた作文より>

私はこの授業で世界におこっているいろんな問題について知ることができたと思う。今の自分たちはとてもいい環境で生活できているということを実感した。・・・外国には昔の戦争などで今でも地雷が埋められていて常に危険と隣あわせの生活を送っている人たちもいるのに、今の私たちはこんなにもぜいたくな暮らしをしている中でもう少し世界の中にある不平等な部分を改善するにはどうしたらいいのかを考えなければいけないような感じがする。難しいことのような感じがするけれど、今からできることもたくさんある。ということもこの授業の中で知ることができた。例えば、水、電気、ガスなどの節約やリサイクル、リメイク、募金など。真剣に考えたらもっとあるはずだと思う。。。この授業をうけ

るまでは国などの機関がどうにかするしか方法はないんじゃないかと思っていただけ、こんなにもたくさんの方があって、しかも人を助けるというのに少しでも協力できるならやって行きたいと思う。・・・フェアトレードも学んだし。・・・授業の教時間でこれだけのことを知ることができて今、自分が何をすべきなのかということもわかったから、ちゃんとやっていきたいと思った。

実践者の所感

海外の実情や異文化の紹介などは単発でこれまでも個人的に授業のなかで行ってきた。しかし、教師海外研修やその前後の指導者研修で学んだことを生かし今年度は数回にわたる授業で系統だつて生徒たちに学ばせたいことを教えることができたことは大きな成果であった。また自分自身にとっても挑戦であったが、予想以上の生徒の反応があり開発教育をすることに対し自信を持つことができたし、生徒たちの考えがしっかりしてきたのがわかって本当に嬉しく思った。最初は生徒たちの間にも戸惑いもあったと思うが、しだいにひとつひとつの授業で学んだことが繋がってきたように思う。

今後も自分は英語の授業の中でこのような試みを実践していくことになるだろうと思う。開発教育と英語教育が相反するものではなく、両者をお互いに生かす関係として利用していくにはさまざまな工夫がもっと必要であると感じている。と同時に、単に英文を読むだけの授業を英文の内容をいかに現実に引き寄せるかという点で開発教育には優れた手法がいくつもあると思う。また、英語教育の中で行っている教育活動が開発教育の手法をより際立たせることができると考えている。これをきっかけに自分なりのスタイルを築いていきたいと思う。

資料など

<1～2限目で使った教材>

チョコレート会社のHPを参考にして自主教材を作成した。以下抜粋

What is chocolate? ... Food of the gods

'Theobromo cacao', meaning 'food of the gods', was prized for centuries by the Central American Mayan Indians.

Ingredients

Real chocolate is made from cocoa and its ingredients include cocoa butter, an expensive part of the cocoa bean.

'Theobromo cacao' - The Cocoa Tree

Cocoa trees are now cultivated in many tropical locations around the world. The cocoa tree has broad, dark leaves about 25 centimetres long, and pale-coloured flowers from which bean pods grow.

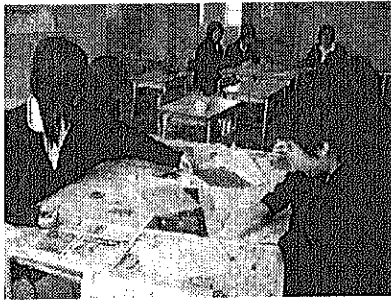
参考：<http://www.cadbury.com.au/playandlearn/whatischocolate.php>



授業で使用了した写真：カカオの実の中

<3 限目の貿易ゲームの参考資料>

参考：「新・貿易ゲーム」（開発教育協会・神奈川県国際交流協会）



茶色のクレヨンで色を塗ってカカオ豆を生産中の生徒たち



ALT の先生とカカオの取引をする生徒たち

<5 限目で使った教材>

参考：ワークショップ版 世界がもし 100 人の村だったら 7) 世界の富は誰がもっているの？

授業で使ったスライドの一部

日本は 100% 海外からカカオ豆を輸入
テマ港(ガーナ)

日本が輸入するカカオ豆のうち、98%をガーナから輸入している你知道吗？

高純度
76%
(2001年度)

カカオ豆

16人1組 1袋04Kgの麻袋を担いで倉庫に運びます。

カカオの生産国
Statistics from 2001-2002

1. Cote D'Ivoire
2. Indonesia
3. Ghana
4. Nigeria
5. Cameroon
- Brazil

チョコレートの生産国
Statistics in 2001

1. The United States of America
2. Germany
3. The United Kingdom
4. France
5. Japan
6. Holland

<6~8 時限目で読んだ英文の抜粋>

A Village of 100 People, New Stage: 発行 池田書店 pp.68-70

.... In the world today, 6 billion 300 million people live. If this world were shrunk to the size of a village, what would it look like?

75 people have some supply of food and a place to protect them from the wind and the rain, but 25 do not. 17 have no clean, safe water to drink. Of the energy of this village, 20 people consume 80% and 80 people share the remaining 20%. If you have money in the bank, money in your wallet and spare change somewhere around the house, you are among the richest 8. If you have a car, you are among the richest 7.

平成16年度 教師海外研修（派遣国：ガーナ共和国）実践報告書

1. タイトル みんな幸せ？～地球市民として共生していく～

2. 氏名 松川 弥生
 学校名 名古屋市立自由ヶ丘小学校 担当教科 小学校全科

3. 実践教科 総合的な学習の時間 時間数 24時間完了

4. 対象生徒・学年 小学校6年生 対象人数 27人×2クラス


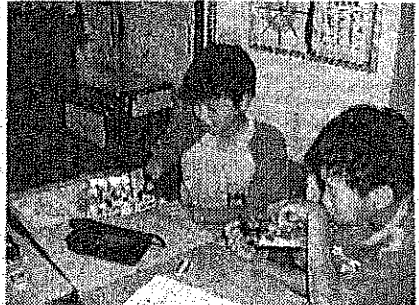
5. カリキュラム案

(1) 実践の目的

世界の国々の生活やいろいろな境遇にある子供たちの生活を知り、本当の幸せとは何かを考え、平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きていくことが大切であるということを知覚できるようにする。

(2) 授業の構成案

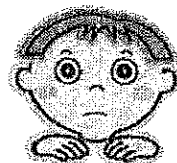
時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1,2限目 テーマ：幸せってなに？ ねらい：今の自分についての幸せについて考える。	(1)今の自分にとって幸せを付せんに書く。 (2)グループごとに模造紙に張り、分類する。カテゴリーに分け、多かったカテゴリーを発表する。	(1) 付せん、マジック (2) 模造紙、マジック
3～10限目 テーマ：ガーナを知ろう ねらい：自分たちは文化や生活様式の違う国の様子を知り、自分たちの生活を振り返る。	(1)フォトランゲージやガーナ体験を通して、ガーナの生活を想像したり、ガーナの文化に触れたりする。 (2)ガーナの生活を模造紙にブレインストーミングで書き出す。学校、生活、スポーツ…など、カテゴリーごとにまとめる。 (3)ガーナの生活から、日本の生活を振り返り、同じようにカテゴリーごとに模造紙にまとめる。	(1) ワークシート、ガーナで撮った写真、ガーナで買った民族楽器や衣装、ガーナの教科書、バケツ等 (2) 模造紙、マジック (3) 模造紙、マジック
11～16限目 テーマ：世界に目を向けよう ねらい：世界にはいろいろな境遇にある子供たちがいることを知る。	(1)本「世界がもし100人の村だったら」を紹介し、自分たちは数少ない先進国の人間であることを知る。 (2)ビデオ「世界がもし 100 人の村だったら」を視聴し、少年兵やストリートチルドレン、児童労働の実態と子供たちの様子を知る。	(1) 「世界がもし 100 人の村だったら」 社 (2) ビデオ「世界がもし 100 人の村だったら」（テレビ放送を録画したもの）、ワークシート
17～19限目 テーマ：幸せってなんだろう？ ねらい：感じたことや学習したことをもとに、もう一度幸せについて考える。	(1)もう一度、幸せについて考え、付せんに書く。 (2)グループごとに模造紙に張り、分類する。はじめに行った模造紙を見て、幸せといえるものとそうでないものに分ける。 (3)はじめの活動から変わった点を中心に話し合う。	(1) 付せん (2) 模造紙、第1時に行った模造紙 (3) ワークシート
20～24限目 テーマ：わたしも一人の地球市民 ねらい：地球市民の一人として自分が今からできることを考える。	(1)みんなが幸せに生活できるようにするために、地球市民として自分が今からできることを考え、話し合う。 (2)元青年海外協力隊の方の話聞き、青年海外協力隊や国際協力とは何かを知る。また、世界の人々と共に生活している日本人の思いや願いを知る。	(1) ワークシート (2) 元青年海外協力隊の方の写真や資料

学習活動	主な学習内容
<p>I 幸せってなに？</p> <p>今の自分にとっての幸せとは何か、付せんに書いてグループの仲間と似たもの同士で分類してみた。子供らしく、ゲームをしている時や学校が休みの時、宿題がない時などたくさんの意見が出た。</p>	<p>ぼくは、新しいゲームを買ってもらった時。</p> <p>わたしは、昼まで寝ていられる時かなあ。</p> 
<p>II ガーナを知ろう</p> <p>ガーナの写真を見て、フォトランゲージを行った。子供たちなりに、写真の細かいところまで見て、ガーナの生活について想像を膨らませていた。(資料1)</p> <p>ガーナの生活で体験できそうなことを出し合い、体験をした。日本にはない人々の工夫や文化の違いを体験することができた。(資料2)</p> <p>写真や教師の話から想像したガーナの生活をブレインストーミングで模造紙に書き出してみた。その後、カテゴリーごとにまとめ直した。ガーナは、水道がない、路上でものを売っている、文房具がない・・・などと、日本とは違って不便であるという声が多く聞かれた。</p> <p>ガーナの生活をもとにして、日本の生活について考え、模造紙にまとめた。スーパーで何でもそろふ、子供は働かなくてもよい、水道をひねるとすぐ水が出る、病院が近くにある・・・などと、とても便利で豊かなくらしをしていることに改めて気が付いていた。</p> <p>中には、「こんなに恵まれているのに、わがママを言っていてはいけないな。」とか、「豊かで何でも手に入るからといって無駄遣いをしていてはいけないな。」という感想を述べる子供がいた。また、「日本は自分たちの文化を大切にしていけないのではいかな。」と日本のマイナス面に目を向けたり、ガーナのよさを見付けたりした子供もいた。</p>	<p>ぼくは、小学生です。授業をしています。ノートや鉛筆はありません…。</p>  <p><写真で話そう(フォトランゲージ)></p>  <p>重いよ～。落ちるよ～。</p> <p>ガーナの衣装だよ。</p> <p><ガーナ体験></p>  <p>日本はすぐに近くに病院があるよね。</p> <p>文房具はみなさん持っているよね。</p> <p><模造紙にまとめる作業></p>

III 世界に目を向けよう

ビデオ「世界がもし100人の村だったら」を視聴した。少年兵やストリートチルドレン、児童労働を強いられている世界の子供の様子を見て、感想を書いた。(資料3)

学校に行くことが当たり前だと思っていた。でも、自分の名前も書けないなんて…。海外の金持ちの人が買っていくじゅうたんを子供が作っているなんて、知っているのかな？「おなかいっぱい食べたい」とか「家族と一緒に暮らしたい」が夢だなんて…。



IV 幸せってなんだろ？

もう一度、幸せとは何だろうということをお子供たちに投げかけた。初めと同じように、付せんに幸せと思うことを書いた。そして、前に書いたものを見て、今も幸せだと思うものとそうでないものに分け、新たに横造紙に整理した。作業中、子供たちからは、「ゲームはもう入れないね。」「これは〇〇という意味だから幸せって思うよね。」などという声が聞かれ、これまでの学習を通して、子供たちの意識が変わってきたことがうかがわれた。(資料4)

家族に関係することがすごく増えたよね。



最初に書いたのはゲームのことはわかりだ。これはもう入れなくていいよね。

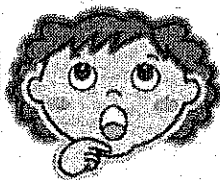
<付せんを整理する作業>

V わたし一人の地球市民

幸せについての意識が変わってきた子供たちが、地球市民として今からできることを考えた。環境、資源、家族、友達などについて、自分たちの身近なところに目を向けて考えていた。そして、元青年海外協力隊の話聞き、世界で活躍する日本人の思いや願いを知った。

歯みがきをする時、めんどくさくて水を出しっぱなしにしていた。今日からはこまめに止めようと思う。
お母さんが作ってくれた料理を、嫌いだからといって残さないようにしましょう。
文句を言いながら勉強していたので、自分の勉強に文句を言うのはやめるようにする。

お金や物をあげるのではなく、現地の人たちが自分たちで工夫して生活できるように、技術を教えるのです。

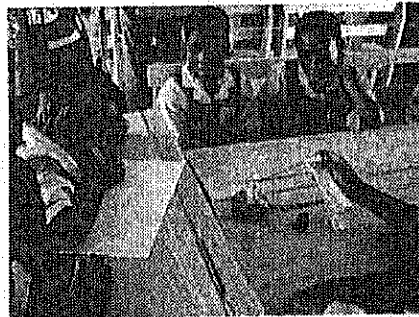
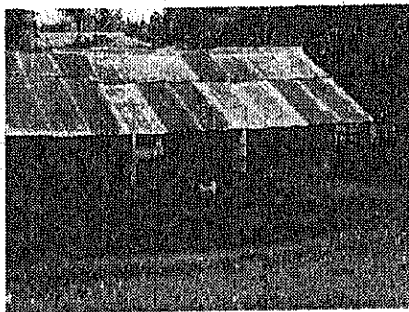
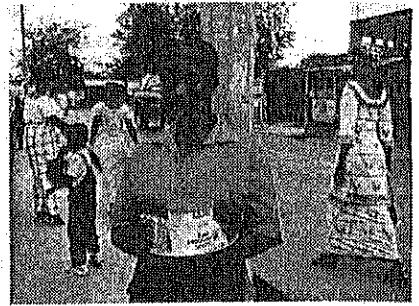
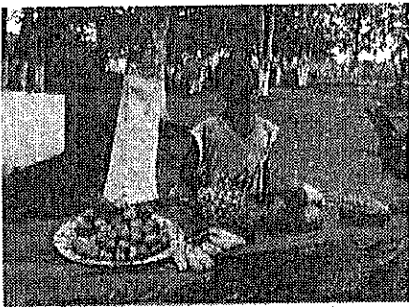


【元青年海外協力隊員の原田さん】

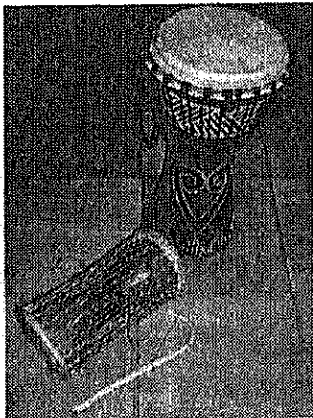
成果と課題

子供たちは、今の自分たちの生活が非常に恵まれていて、ぜいたくなくらしをしていることを強く感じたようだ。実践を進めるうちに、子供たちの幸せに対する意識が変わってきたことがよく分かった。これは、「世界がもし100人の村だったら」の本とそのビデオの影響が大きいと思われる。頭の中では、「無駄遣いをしない」「仲良くする」「大切にすること」分かっているけれども、行動に移して継続させていくことはなかなか難しい。今回の学習で自ら気が付いたことを、日ごろの生活に生かせるようにしていきたい。

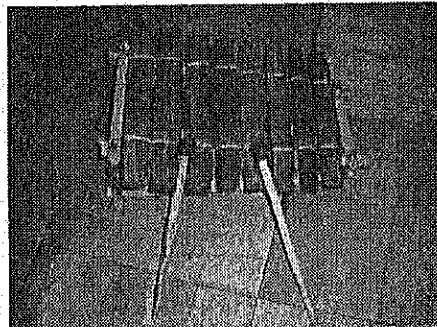
(資料1) フォトランゲージに使用した写真の一部



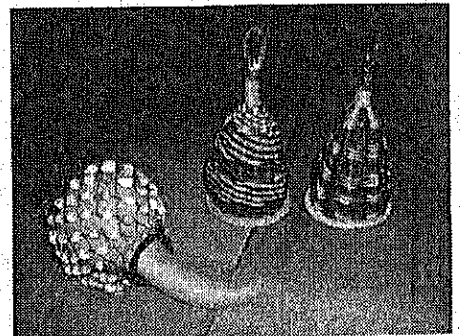
(資料2) ガーナ体験で使用した現地から持ち帰った物



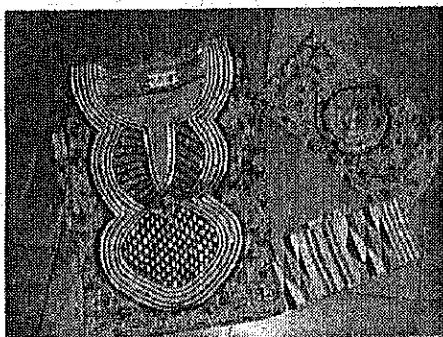
たいこ



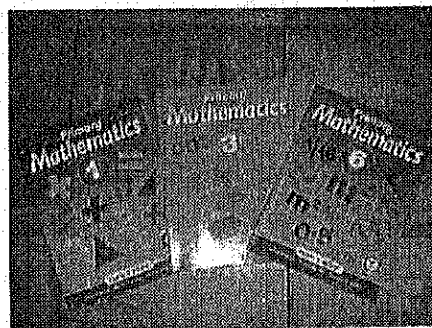
ひょうたんを使った木琴



マラカスのような物



女性の衣装とケンテ布



小学校の算数の教科書

(資料3)

- ・ 「世界がもし100人の村だったら」 池田香代子 再話, C. ダグラス・ラミス対訳
マガジンハウス 838円 (税別)
- ・ 「世界がもし100人の村だったら②」 池田香代子&マガジンハウス 編
マガジンハウス 1143円 (税別)
- ・ 「世界がもし100人の村だったら」 テレビ放送の録画VTR
ダビングしていただいたため, 放送日時, 放送局等不明

(資料4) 児童が付せんを整理した模造紙

